



みんなで川をよくしたい

～江戸川・坂川清流ルネッサンスの取り組み(その2)～



住民と行政と一緒に進める川づくり

みんなで話し合う 懇談会の開催

江戸川・坂川をもっとよい川にするために、住民と市、県、国の4者の話し合いを定期的に開いています。

ふれあい松戸川はみんなで話し合ったアイデアが活かされ、親しみやすく生きものにやさしい川になっています。



整備前



整備直後
(1998年)

整備直後、まだ水路沿いには少しの植物しか見られませんが…



現在
(2007年)

現在は、水路を取り囲むようにこんもりした緑が育ち、見た目にも多様な植物が育っています。

みんなで勉強する 環境学習の推進

江戸川や坂川のことを学校でも勉強できるように、川に詳しい人が学校で教えたり、「学校の先生」になったり、学校と川との交流もさかんになっています。



みんなできれいにする

地域住民が川のゴミ拾いや掃除、花植えをするなどの河川愛護活動に積極的に取り組んでいます。



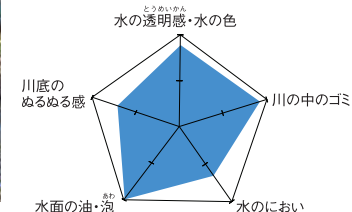
みんなで調査する 坂川の生きものと水質の調査

川を知る近道は、実際に川に入って、自分で川の水質や川の生きものを調べることです。みんながそうした機会をもてるようなイベントも行っています。



坂川水質アンケート調査結果

〔坂川(松戸神社下)〕



■グラフの見方

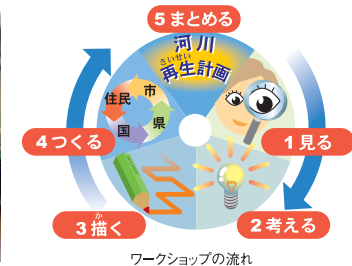
黒い五角形(グラフの外枠)は、川のきれいさ(「水の透明感・水の色」、「川の中のゴミ」、「水のおいしさ」、「水面の油・泡」、「川底のぬるぬる感」)の全項目で、みんなが最もよいと感じたときにできるグラフです。それに対して、青い五角形は、現在、みんなが感じている川のきれいさで、五角形が大きくなるほど川がきれいだと感じていることになります。

みんなで川作りをする

親しみやすく生きものにやさしい川にするためにはどうしたらよいか、みんなで考えながら川づくりをしています。



ワークショップや勉強会



さがわさいせい じぎょう

坂川再生事業

小山～赤塚までの区間を対象に、坂川の環境を回復・再生するプロジェクトです。ワークショップを開いて、住民と市、県が話し合いをしながら、川の整備を進めています。



(2005年)



(2007年)



春雨橋近くの様子



江戸川・坂川は こんなによくなっている

清流ルネサンスの取り組みが坂川をよみがえらせ、江戸川の水をきれいにしていきます。



川の様子もずいぶん変わった

かつての坂川（放水路）



坂川放水路（2000年）

現在の坂川（放水路）



坂川放水路（2007年）

かつての坂川



新坂川（1988年）

現在の坂川



新坂川（2007年）



坂川・赤坂（1988年）



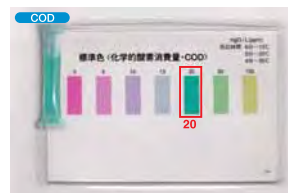
坂川・赤坂（2007年）



すいしつ 水質もよくなってきた

見た目だけではなく、簡易水質測定パックによる測定結果からもきれいになっていることがわかっています。

かつての水質（1996年）



現在の水質（2006年）



■COD【化学的酸素消費量】

水中の汚れ（有機物）の量を表すものです。水中の汚れを酸化剤（過マンガン酸カリウムなど）で分解する際に消費される酸素の量を言い、値が大きいほど水が汚れていることを表します。



■NH4-N【アンモニア態窒素】

水中に含まれる窒素化合物のひとつで、タンパク質などの有機物に含まれる窒素が分解されると最初に発生します。し尿や家庭排水、工場排水などが川にたくさん入り込むと、その値も高くなります。



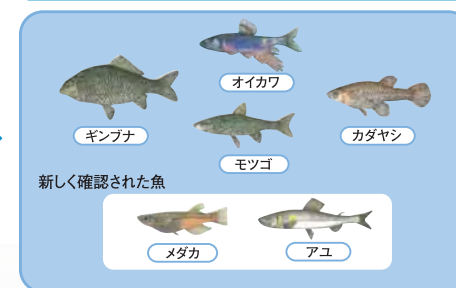
坂川の生きものも豊かになってきた

坂川では比較的水のよごれに強い種類が中心ですが、水質改善にともなってアユやメダカも確認されています。

かつての生物（1997年頃）



現在の生物（2004年頃）



江戸川の水から作った水道水もおいしくなった

かつては、江戸川から作られた水はおいしくないと言われていました。しかし、江戸川の水質改善がなされ、さらに浄水場でも高度な処理をするようになってからは、おいしい水に生まれ変わりました。

金町浄水場で作られた水道水も、ペットボトル「東京水」として売られています。



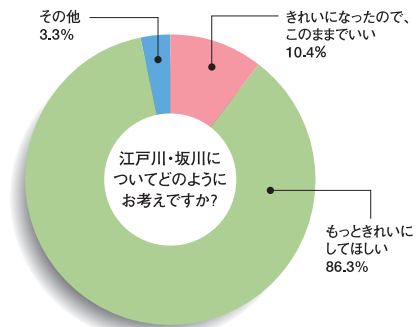
写真：東京都水道局ホームページ
(プレス発表2006.5.30)



江戸川・坂川を もっときれいにするために



江戸川・坂川に対するみんなの期待はまだ大きい



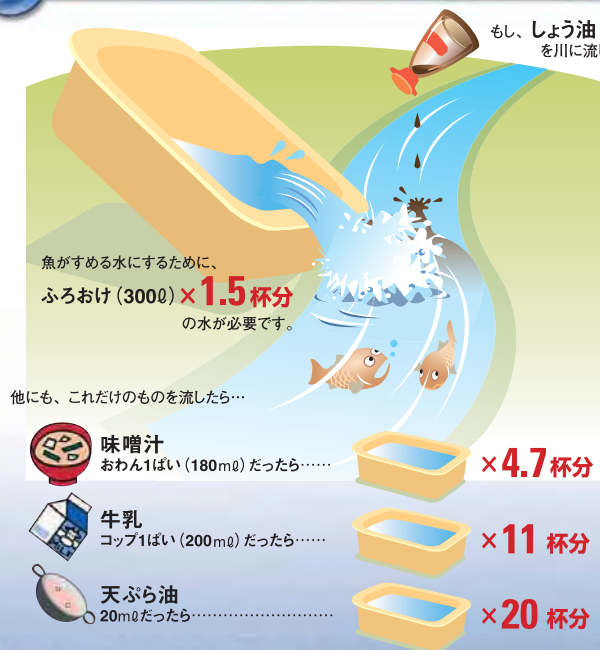
みなさんから寄せられた主な意見

- もっと生きものがすむ川になってほしい
- 眺めていると心いやされる
- 川がよくなるように協力したい
- 清流ルネッサンスをつづけてほしい
- 環境を守ることの大切さをアピール・教育すべき
- 水にふれる場所を作りたい
- 楽しい空間をどのように取り戻すか
- 子供達に川の自然を体験させたい

(2002年に行った坂川流域にすむ皆さん(約600人)へのアンケート結果)



川は簡単によごれてしまう。だから、まだまだ油断はできない



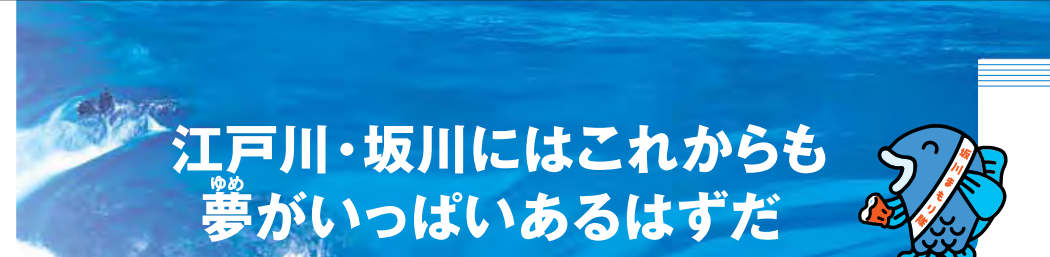
芝崎第二樋管(流山市芝崎地先)



鮎ヶ崎第六樋管(流山市鮎ヶ崎地先)



長津川(松戸市中根地先)



江戸川・坂川にはこれからも 夢がいっぱいあるはずだ

将来の子供達にもっと魅力のある江戸川・坂川を残していくために、清流ルネッサンスでは、江戸川・坂川が目指すテーマ(望ましい川の姿)を決めました。
私たちや生きものが安心して楽しく川と暮らしていくために、これからも清流ルネッサンスの取り組みを続けていくことが大切です。



江戸川・坂川が目指すテーマ

川と暮らしの融合



「川を食す」



「川を使って移動する」



「川で遊ぶ」



「川で安らぐ」



「川で学ぶ」



「川で文化を育む」



「川の水、暮らしの水を育む」



「防災・安全」

自然の保護と創造・復元



「自然の保全」



「自然の創造・復元」

清流ルネッサンスを推進する地域協議会

地域住民代表と学識経験者、そして流域自治体である松戸市、柏市、流山市と河川管理者である千葉県、国土交通省、さらには利水者の代表である東京都より構成された「清流ルネッサンスⅡ江戸川・坂川地域協議会」では、自然としての江戸川・坂川の価値をさらに高めていくことを目指して、住民と行政が一体となった取り組みを推進しています。